



第24回日本骨粗鬆症学会 ランチオンセミナー1

骨粗鬆症治療の最適化 – 2022 update –

Optimizing the treatment of osteoporosis – 2022 update –

2022年

9月2日  12:00-13:00

第1会場
現地+Live配信

大阪国際会議場 10F 会議室1003
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5-3-51

座
長

宗圓 聰 先生

そうえん整形外科 骨粗しょう症・リウマチクリニック
院長

演
者

蛭名 耕介 先生

大阪大学大学院 医学系研究科 運動器再生医学共同研究講座
特任准教授

日本整形外科学会の1単位が取得できます。
(受講料 1講演1,000円)

- ・専門医資格継続単位
必須分野：4.代謝性骨疾患（骨粗鬆症を含む）

本会共催セミナーに
関するご案内は
学会HPを
ご覧ください。



<https://site2.convention.co.jp/jos2022/>

共催 | 第24回日本骨粗鬆症学会/東和薬品株式会社

骨粗鬆症治療の最適化

– 2022 update –

大阪大学大学院 医学系研究科 運動器再生医学共同研究講座 特任准教授

蛭名 耕介 先生

本邦においては健康寿命と平均寿命には約10年の差があり、この「最後の10年」をいかに自活して過ごすかが医療費と介護力の両面より喫緊の課題となっている。

その主要な原因の一つとなっているのが骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折である。

本邦における骨粗鬆症の潜在患者数は1300万人を超えると推定され、それに伴う大腿骨近位部骨折の発生件数は2017年度で年間193,400件と、いずれも経年的に増加傾向にある。そのため本邦では様々な骨代謝調整薬・骨吸収抑制薬・骨形成促進薬などが使用可能となっているが、これらの骨粗鬆症治療薬の有効性の大前提となっているのはビタミンD (VD) とカルシウム (Ca) の適切な充足である。我々は経口摂取するCaの約3-4割程度しか腸管や腎臓から吸収することができず、VDはこのCaの再吸収と骨の石灰化を促進する。前駆体である天然型VDは主に紫外線的作用により皮膚で合成されるほか、魚類などの食料より摂取される。その後天然型VDは肝臓で貯蔵型VDに、のちに腎臓で活性型VDに変換されることで生理活性を獲得する。骨粗鬆症治療における骨密度の増加には、VDやCaの充足による骨石灰化の促進や、VDや骨への運動負荷による骨モデリング（骨吸収を伴わない骨形成）が必要である。一方でVDやCaが不足すると副甲状腺ホルモンの産生が亢進し、骨吸収を亢進させることで血中Ca濃度を上昇させることが知られている。以上よりVDを充足することは骨恒常性維持と骨粗鬆症治療において必須の要素と考えられるが、本邦においては人口の約80%以上でVDが不足しているとの報告がある。一方で腎機能低下例における過剰な活性型VDの充足は高Ca血症や尿路結石につながる可能性もあり、適切な用量調節や定期的な検査が必要と考えられる。現在の超高齢化社会において、長期的視点に立った安全かつ効果的な骨粗鬆症治療計画のためには最新情報のupdateと、それに基づいた論理的な思考が必要とされている。本公演では骨代謝の基本的考え方と、最新の骨粗鬆症治療薬の特徴・併用療法などを踏まえた骨粗鬆症治療の最適化について、最新のエビデンスを供覧しながら概説したい。